

「新しい東北」復興ビジネスコンテスト 2018 KDDI 総合研究所賞 記念対談



【写真左：株式会社 KDDI 総合研究所 守屋直文取締役執行役員フューチャーデザイン 2 部門長】

【写真右：貴凜庁株式会社 ^{みい}三井紀代子代表取締役】

先般実施された「新しい東北」復興ビジネスコンテスト 2018 において、貴凜庁株式会社が KDDI 総合研究所賞を受賞したことを記念して、平成 31 年 2 月 15 日、株式会社 KDDI 総合研究所 守屋直文取締役執行役員フューチャーデザイン 2 部門長と、貴凜庁株式会社 三井紀代子代表取締役との間で対談が行われました。

受賞のポイント

守屋 「新しい東北」復興ビジネスコンテストには、毎年協賛させていただいておりますが、企業賞の選定にあたって共通しているのは、まず、被災地域の復興に貢献されている取り組みであること、次に、現時点もしくは将来的に ICT・通信に関わりがある取り組みであることです。

今回の受賞の一つ目のポイントは、防災教育を全国に普及し、また震災遺構を活用されているということが、私たちが忘れてはいけない歴史を語り継いでいただけるとても社会的な意義が大きいプロジェクト¹である、ということです。

二つ目は、将来的な部分も踏まえ、教育・防災分野において、これからさらに ICT の活用が進んでいくにあたり、新しいヒントをお互いに得られるような関係を築くことができればという想いで、選定させていただきました。

三井 ありがとうございます。ICT の活用に関しては、今後さらに取り組みを進めていきたい部分でありますし、今回受賞させていただき、非常に嬉しく思っています。

¹ 貴凜庁株式会社は、東日本大震災で被災した旧野蒜小学校を活用して、防災の大切さを子供たちに伝える事業で、KDDI 総合研究所賞を受賞。

取り組み紹介

三井 もともと廃校になった小学校を活用して、防災に関する教育をしたいなと思っていましたが、東松島市の野蒜小学校が廃校になったこととお聞きし、東松島市様にご提案させていただき、平成30年7月に子供未来創造校「KIBOTCHA（キボッチャ）」²をオープンしました。

守屋 なるほど。そういう経緯があったんですね。

三井 今回受賞させていただいた取り組みは、その小学校を活用して、防災のプロである自衛隊OBを中心とした指導員が、子供たちに防災を通じて命の大切さを伝える事業です。施設の1階は地域の方のためのコミュニティフロア、2階は防災教育、3階は宿泊という複合型のエデュテイメント施設として運営しています。メインとなる防災教育では、施設内だけではなく、周辺の豊かな自然を活かした野外体験活動も行いながら、単に学ぶではなく、体験をキーワードに取り組んでいます。

守屋 「教育」・「防災」は、これからの社会において今以上に問われるテーマだと思いますし、とても素晴らしい取り組みですね。

三井 ありがとうございます。オープンから運営を続けていく中で、もちろん施設のテーマ・コンセプトに変わりはないのですが、地域の方から様々なご要望をいただくようになりました。オープン当初は、地域の中でも肯定的な意見だけではなく、「あの時のことを思い出してしまうから、なかなか来れないんだ」という声もあったのですが、今は地元の方が施設を使って楽しんでいただくことも、ひとつの心の復興といえますか、壁をひとつ乗り越えたというような声もお聞きするようになり、それも防災・減災につながる大きなテーマだと思っていますので、地域活性化のためにも取り組んでいるところです。

守屋 KIBOTCHA が地域のコミュニティの核になりつつあるのですね。復興の捉え方は色々だと思いますが、そこに住む方が元気になることが一番大切なことだと思います。実は、弊社も昨年の11月末に東松島市様と協定³を締結し、将来的な通信インフラも含め、ICTの利活用による地域活性化にご協力させていただくことになりました。

三井 東松島市様は、「SDGs 未来都市」⁴に選定されていますし、私たちも地域の中で防災教育を担い、防災・減災、そして新しい未来都市といったところで貢献させていただきたいで



地元のお客様で賑わう「KIBOTCHA」

²貴凜庁株式会社が運営する KIBOTCHA（キボッチャ）は、東日本大震災により津波被害を受けた旧野蒜小学校跡地を活用した防災エデュテイメント施設。名前は、「希望」＋「防災」＋「Future（未来）」を意味しており、防災をテーマに子供たちが楽しく学ぶことができる。

³平成30年11月30日、東松島市と KDDI 株式会社・株式会社 KDDI 総合研究所・株式会社 KDDI エボルバは、SDGs 未来都市に関する事業の推進による地域活性化を目的として協定を締結した。

⁴SDGs（エスディーゼーズ）は、2015年に国連サミットで採択された持続可能な開発目標の総称。SDGs 未来都市は、特に経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して、持続可能な開発を実現する潜在能力が高い都市・地域として、政府が選定している。

すし、地元では一体となって取り組もうという機運を感じますね。

守屋 ぜひその地域の盛り上がりの中に、KDDI グループ会社である KDDI エボルバの農園事業「^{きちみ} 満つる ^{きと} 郷 KDDI エボルバ野蒜」⁵も含めていただいて、貴凛庁様と一緒に取り組んでくれるパートナーが繋がって、地域内のエコシステムを形成し、さらに良い関係性が育まれると素敵ですね。

ICT×教育の可能性

守屋 ICT の活用については、どのようにお考えでしょうか。

三井 オープン当初から積極的に取り入れたかったのですが、まだまだこれからです。現在は、KIBOTCHA2 階の学習ルームの中に「デジタル資料館」という場所があり、当時の町の状況などをスライドで投影しています。

守屋 すでにデジタル化されたコンテンツが蓄積されつつあるんですね。

三井 そうですね。自社で少しずつ進めています。ただ、実は当初から本格的に導入しなくてよかったなという面もありまして、先ほども申し上げましたが、地域の方から「こういったこともやってもらいたい」とか「こういった内容を発信してほしい」というご意見をたくさんいただき始めているものですから、そういったご意見も取り入れた形で発信するための準備の時期だと思っています。「野蒜塾」という住民有志の方のグループがあるのですが、そこから地域に関する様々な資料もご提供いただいているので、これから正しく整理し、しっかり発信していきたいですね。

また、教育という観点でも、今の子供たちは、スマートフォン・タブレットが身近な世代ですから、「防災教育キャンプ」というメニューの中でもタブレットを使って、クイズ形式で遊びながら、勉強できるような工夫を取り入れています。ICT の活用は、教育にもプラスに働くのではないかと考えています。

守屋 弊社でも「教育」は将来の事業の柱の一つになる可能性がある領域と捉えています。教育におけるこれからのトレンドは、ひとつはパーソナライズ化が進むこと、もう一つはリカレント教育や人生 100 年時代の学び直しというの、社会トレンドになってきます。自然災害がいつ起こるかわからない状況の中で、国全体で防災知識を身に付けておかないといけない時代です。私たちとしても将来的には社会人の学び直しにも対応する幅広いプログラムをご提供できればと考えており、実際に KIBOTCHA のような体験施設があれば、情報提供の方法にバリエーションができ、有益なプログラムになると思います。



⁵「^{きちみ} 満つる ^{きと} 郷 KDDI エボルバ野蒜」は、東松島市野蒜地区において KDDI エボルバが運営する農産物栽培拠点。東松島市が掲げる「SDGs 未来都市計画」の推進に対して、IOT、ICT 等の通信を活用した農産物の品質、食味を高める実証を行い、地域の障がい者および高齢者の雇用を持続的に行うことを目指している。

これからの展望について

守屋 現在の施設集客の状況はいかがですか。

三井 はい。まだまだ「KIBOTCHA って何？」という声が多いのも事実ですが、一人でも多くの方に施設を知っていただき、実際に訪れていただくために、日々努力しています。直近ですと、3月3日（日）に、「鳴瀬かき祭り」というイベントを実施しました。もともと震災前は人気と集客力のあるイベントだったんですが、震災後は中断されていました。しかし、2017年に鳴瀬地区で復活しましたので、今回は初めてKIBOTCHAでも実施してみようという運びになりました。それ以外にも様々なイベントを通して、KIBOTCHAの活動を知ってもらえるきっかけづくりに励んでいます。

しかし、宿泊という面では、まだまだ繁忙期と閑散期の差が激しく、難しい部分があります。宿泊の稼働率を上げることが、安定的な施設運営につながりますので、すぐに大きなPRは難しいかもしれませんが、地道に努力していきたいですね。

守屋 やはり、宿泊となると体験型のイベントができるということが強みになりますか。

三井 そうですね。まず、KIBOTCHA周辺は自然環境・景観に恵まれています。今後につきましては、周辺の奥松島や、浦戸諸島という島々とうまく組み合わせれば、施設運営と絡めて、これから色々なアクティビティが提供できるのではないかと考えています。

守屋 素晴らしいですね。都会にない環境を十二分に活かして、例えば、お子さんだけでなく、大人も楽しめるフィールドアスレチックのようなコンテンツはいかがでしょう。

三井 面白そうですね。まずは、今年の夏を目標に、企画を固めていきたいです。

守屋 少し未来的な話をしますと、貴凜庁様の事業の当初のコンセプトという意味では、防災教育であって、それはある意味「過去に学んで、伝承する」とも言い換えられるのかもしれませんが、しかし、その先の「未来」というものをご来場された方へ同時にお見せできることができれば、もっと厚みが出て、素晴らしいのではないかと感じました。KIBOTCHAの広い敷地も活用して、例えば、自動走行のパーソナルモビリティやドローンでの荷物配送などの新しい技術・サービスの体験を提供すると来館者に対して新たな価値や、ワクワク感をお伝えできると思います。

三井 おっしゃるとおりですね。KIBOTCHAは、「子供未来創造校」の名前の通り、未来に向かう創造施設なので、そういった新しい技術も含めて、子供たちに感動や喜び・学びを伝えていきたいですね。

守屋 今回お話を聞いて、様々なパートナーやステークホルダーのまとめ役にならんとされているので、とても心強く感じました。おそらく施設単体で、全てを満たすことは困難だと思いますし、しっかりとした協力体制を築くことが重要だと思いますが、これからその輪の中心になっていただければと思います。期待しています。

三井 ありがとうございます。とにかく努力あるのみだと思います。これからも色々とお知らせさせていただきます。

是非、一度KIBOTCHAにもお越しになってください。

守屋 そうですね。楽しみにしています。

